

発行 青森県金木町役場 編集 企画室

採血所開設の

お知らせ

この四月から、県血液センター弘前採血所が弘前大学付属病院内に開設され、毎日採血に応じています。また、五所川原保健所においても、毎月第一と第三木曜日の午前中に採血にしています。

実証された水不足

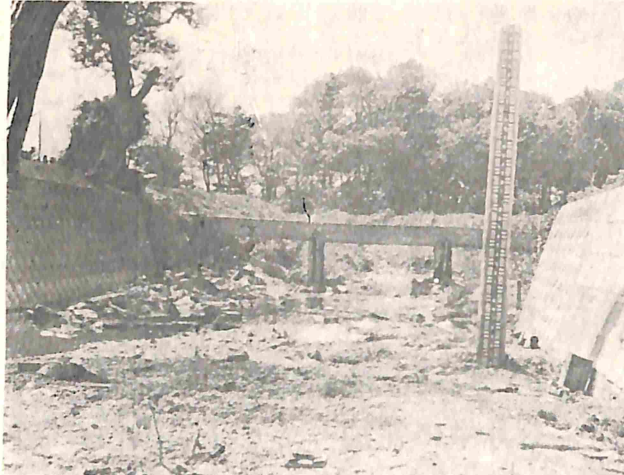
欠かせないダムの建設

四月中旬から五月中旬にかけて雨らしい雨が降らないため、河川は川底を見せるほど水量がなくなり、荒かき、代かき作業ができずやむを得ず田植えを伸ばした農家もたくさんありました。特に川から水を引いている田んぼの水不足がひどく、いったん荒かきをしたものの、途中で水がなくなり、乾いてしまったという例もあります。このため、やっと確

流域が狭く 水不足は必然の現象

保した田植えの人手も御破算になり、水不足をしりぬにどんどん成長する苗と乾ききった田んぼを見やりながら、焦燥と不安の日を送った農家がほほうで見受けられました。

【水位ゼロの小田川。五月十五日奴橋付近で】



いえるほど大切なもの。特に田植え時期の水の重要さは、今さら言うまでもないことです。それほど大切な水でも、天候を待つより方法がないというのですから、農家のかたがたが焦燥と不安、というよりは、危機感さえ感じられたのも無理のない話です。

対策はダムの建設……
小田川土改事業

この年中行事のような水不足を解消するにはどうしたらよいか。①雨を降らせる②山林の面積を多くする③ダムなどをつくる、というような方法が考えられますが、①と②はほとんど実行不可能なことなので、残るのは③よりないこととなります。

そういうことから計画され、実施されているのが小田川ダム建設をはじめとする一連の土地改良事業なのです。この水不足の経験からも、この事業の必要性あるいは



【植樹祭＝植えているのは三上町長】

芦野公園で植樹祭 緑化推進北五支部

県緑化推進委員会北五支部(平山文三郎支部長)では、五月十三日芦野公園招魂堂裏で植樹祭を行いました。植樹祭には三上町長、山下金木営林署長ら百人が出席し、ソメイヨシノザクラ五十本を植えました。

はありますが、この地方の水不足は、単にそればかりではなくて、流域面積が狭いために起る必然的慢性的現象なのです。流域面積が狭いというのは、簡単に言えば、水が必要とする水田の面積に対して山林の面積が少ないということです。

普通、流域面積が水田面積の二倍以上なければいけないといわれていますが、この地方は五倍以上ない状態です。従って水が不足するの不思議はないわけです。

水不足でない、という主張も一部にはありますが、今年の例でも分かる通り、それが間違いであることが実証されたことになりました。

科学、文化がこれほど発達した現代において、旧態依然として、すべてを自然にゆだねるような農業経営をしなければならぬことというのは、なんとしても残念なことであり、また悲劇でもありません。自然を克服し、自然を利用するのが科学であり、文化であり、近代的農業経営です。

重要性というものを、もう一度考え直してみる必要がある、という声が高まっています。

小田川土地改良事業については確かにいろいろないきさつがあり、また、負担金という問題もありました。しかし、目さきの利害感情や小事にとらわれて、時勢におくれたり、将来の大利を失うようなことがあってはならないと思います。めまぐるしく推移する社会情勢。そういの中であって、わが町の経済を伸ばし、わが町の発展を促す特効薬は何か。いま一度考えてみようではありませんか。

住宅団地造成計画

45年度までに84戸

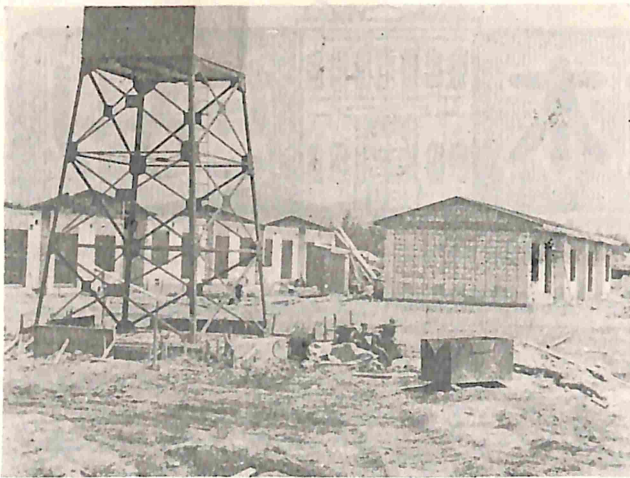
場所はグラウンド東側

町では昭和四十三年度から三カ年で、芦野グラウンドの東側に町営住宅八十四戸を建設する計画です。

住宅団地は、はじめ競馬場東側に造成する計画で、昭和四十二年度に着工し二十八戸を建設し、

したが、用地確保が困難となったため、場所を変更したものです。四十三年度分三十戸（第二種住宅）を建設する計画

【建設中の町営住宅】



住宅難に悩んでいる世帯が金木町全体でおよそ五百世帯はあるものと見られており、ここ当分は住宅難が続きそうです。
なお、町営住宅に入居したい方は役場の民生課に申込みして下さい。

金小のプールを建設 — 七月中に完成 —

懸案となっていた金小のプールはいよいよ建設されることになりました。このプールの建設については、数年前から金木小・中学校PTA関係者などから強く要望されていたものです。

八十四戸の住宅団地に必要用地は芦野グラウンドの東側の民有地一万一千四百平方メートル（約三千四百二十坪）を確保しています。町では住宅難解消のためほとんど毎年のように住宅の建設を進め、これまでに、町営住宅を九団地百三十戸、教職員住宅を六カ所、十六戸を建設しています。それでも、また

建設される場所は金木小学校と青年研修所の間の空地で、事業費は六百四十三万五千円です。この財源としては、PTA関係者からの寄付金三十二万円のほか、国の補助金九十万円、起債百三十万円、一般財源三百九十一万五千円が見込まれています。プールは児童を対象としたもので、長さ二十五メートル、巾十メートル四十七センチの規模で、六



【プールの建設予定地】

このほか、深さ七十センチ、長さ六十二平方メートル（八十八・六坪）の幼児用プールを併設する計画です。更衣室、便所等については、金木小学校の校舎の一部を改装してあてることになっており、その他の付帯施設としては、洗眼器シャワーなどがあります。六月はじめに工事に取りかかり、七月中に完成の見込みです。このプールが完成すると、児童

の体力の向上、水死事故の防止等に効果があるものと期待されています。

木下氏が老人クに 旗を寄贈

嘉瀬の故木下千代吉氏は、実業界で活躍し成功をおさめた人として知られていますが、生前から、世話になった老人クラブのためになにかして上げたいとほらしていたことから、家族がこのほど嘉瀬の老人クラブ、家族がこのほど嘉瀬の老人クラブ、会員六百人、世話人白川春之助に旗を寄贈し、喜ばれています。嘉瀬の老人クラブではこの旗を行事や会合の度にひろげて、団結と融和のささえにしています。

今啓二君が団長に — 金木町連青 —

- 金木町連合青年団ではこのほど総会を開き、新しい役員を次ぎの通り決めました。
- △団長 今啓二（嘉瀬）
- △副団長 泉谷健市（川倉）、大橋行雄（金木）
- ▽理事 原田繁（藤枝）、岡田武久（喜良市）、菅野忠範（金木）
- ▽泉谷久友（川倉）、工藤ケミ子（嘉瀬）
- ▽事務局長 敦賀哲朗（金木）
- ▽書記 原田スミ（嘉瀬）
- ▽監事 小野繁（喜良市）、野宮正一（嘉瀬）、白川秀憲（川倉）

おわび

先月号の消防審議会の記事で、係の手違いから委員でない古川角雄氏を載せ、委員である花田甚一氏を落としてしまった。両氏に対して大変ご迷惑をおかけしたことをおわびし、訂正いたします。

国保会計のあらまし

44年度予算は 一億一千六百万円余

国民健康保険は、公務員等の共済組合法や船員保険法などの適用を受けない農家や自営業者およびその家族を対象とする医療保険で金木町でも昭和三十四年度から全面实施しており、四十四年四月一日現在で二千四百十六世帯、一万五百一人が加入しています。

この保険の運用に要する費用は国の補助金と加入者が納める税金でまかなわれています。医者にかかった場合、一部負担金として加入者が三割、残りの七割を役場で支払っていることはご承知のとおりです。役場で支払っている七割のうち、国の補助金が約六三％、保険税が約三七％を占めています。

金木町の昭和四十四年度国保会計の予算額は一億一千六百六十七万三千円です。歳入の内訳を見ると、保険税が四千三百七十六万円(三七・五%)、国庫補助金が七千二百八十八万円(六二・五%)、その他三万円となっています。

(第1表) 昭和44年度 金木町国民健康保険 特別会計予算 (単位千円)

歳入	金額	構成比	摘要
保険税	43,760	37.5	国民健康保険税
使用料、手数料	10		督促手数料
国庫補助金	72,882	62.5	国の補助金
諸収入	20		延滞金
繰入金	1		43年度繰越金
計	116,673	100.0	

歳出	金額	構成比	摘要
総務費	6,105	5.3	人件費、事務費
保険給付費	109,263	93.6	医療機関等に支払う費用
保健施設費	1,080	0.9	保健婦設置費用など
公債費	150	0.1	借入金利子
諸支出金	3		過誤納金還付金
予備費	72	0.1	予備費
計	116,673	100.0	

(第2表) 医療給付費の推移 (単位千円)

年度	医療給付費	前年比上年昇率	受診率
41	60,070		3.0
42	72,359	20.4	3.4
43	88,405	22.2	3.6
44	107,466	21.6	3.7

(注) 医療給付費は、医療機関が加入者の診療に要する費用を指す。受診率は、医療機関に加入した加入者の受診率を指す。

歳出の方は総務費六百十万五千円(五・三%)、保険給付費一億九百二十六万三千円(九三・六%)、保健施設費百八万円(〇・九%)、その他二十二万五千円(二・二%)となっています。

医療給付費の伸び 毎年二十%以上

保険税が高い、という話をよく聞きます。確かに年々高くなっています。これは第2表でも分かる通り、医者に支払う額が毎年二十%以上も増加しているため、やむを得ず、税率の改正をして支払いに支障のないようにしているためです。

国から出る補助金(率)は決まっております。それで足りない分は、どうしても保険税でまかないしなげればならないわけです。このように医療機関(病院・医者)に支払う金額が増加しているのは、成人病、職業病など新しい病気の発生や交通事故の激増などによる受診率(医者にかかる回数)の向上、あるいは医療費の引き上げが主な原因となっております。現在のところ、それを押さえる適切な方法はない状態です。

なお、保険税は所得割と資産割均等割、平等割の四つの項目から成り立っており、所得割は所得を、資産割は固定資産税を、均等割は加入者数を、平等割は世帯を、それぞれ基礎に算出されます。

税や町民税の賦課が終わらないうちは計算できないわけです。それで、二期二期の保険税は前年の税額をもとに暫定的に賦課し、最終的には町民税の賦課が終わってから割出して、三期、四期で調整するわけです。

好天に恵まれた桜まつり

会期中の出人は20万人

菅野公園の桜まつりは、連日好天にめぐまれ、近年にない盛況のうちに幕を閉じました。今年も出店も昨年より一店多い百三十九店を数え、五月三日の消防観閲式と四日の葵ひろしショー、モトクロス大会はそれぞれ五万人以上の入出があり、公園一帯は盛況をきわめました。

大会事務局では、会期中の入出



【賑わった桜まつり】

選挙人名簿の調整について

調整について

六月一日現在で選挙人名簿を調整しますから、今まで選挙人名簿からもれていた人や、新たに成人になった人は、至急申し出て下さい。

名簿に登録される資格のあるのは次に該当する人です。

- ◎昭和二十四年六月二日以前に生まれた人
- ◎今年三月一日以前から当町に居住している人。

なお、申し出る期限は六月二日、名簿の縦覧期間は六月八日から十四日までです。

(金木町選挙管理委員会)

六月の納税

町県民税 一期

子どもの水死事故

なくしましように

山菜取りの遭難事故

農繁期に多い水死事故

野も山もようやく緑を増し、農作業も日ごとに忙がしくなつてゆき季節となりました。それとともに子どもの水死事故が増えてゆくのも毎年の例です。

青森県では、最近五カ年の平均で一年間に八十八人の子どもが水死しています。その中で、幼児の水死が圧倒的に多く、例年六十五%以上を占め、その半数近くは、農繁期、特に田植えどきの事故です。

保護者の不注意によって、あてけない子どもの生命が失われることは、このうえもない悲しいことです。かわいなお子さんやお孫さん

んを水死事故から守るため、つき

のことがらを守り、またすすめて

下さい。

①池、せき、洗い場など危い所に

はさく、ふたなどをする。

②仕事をしながら子どもを遊ばせ

ておくときは、必らず目のとどく

所におく。

③子どもが楽しく安全に遊べる場

所をつくり、危い所に行かせない

ようにしむける。

④貯水池などのさく、ふたなどが

こわれていたら、管理者に連絡し

てすぐ修理してもらおう。

⑤やむを得ず眼の悪い老人や年長

の子どもに子もりさせるときは、

じゅうぶん注意を与える。

⑥田植え、除草作業中に乳児をあぜなどに寝かせておくときは、水田やせきに落ちないように安全を確かめる。

老女に多い山菜取り遭難

県内の昨年の山菜取り遭難事故は、発生件数十件、死者二人で、これに要した捜索日数十六日、捜索従事者一千四百二十七人でした。

山菜取りのシーズンに入りまし

たが、すでに金木町でも一人の死者がでています。

山に入るときは、つぎのことが

らを守りましょう。

①天気予報を確かめて、天気が悪くなりそうときは山に入らない

②万に備えて、予備食糧、マッチ、雨具などを持って行く。

③行先、帰宅時刻などを家族に知らせる。

④地理に不案内な山には入らない

⑤ひとり歩きはしない。

⑥天候が悪くなつたら、無理をせず、早く引き上げる。

⑦道に迷つたら、いたすらに歩きまわらず、その地点から連絡方法を考える。

高橋(元)氏が会長に

商工会総会

金木町商工会の昭和四十四年度総会は、五月二十六日午後一時から、青年研修所で開かれました。総会には百人余の会員が出席し

選んで決めることにした結果、会長には前副会長の高橋元弥氏が選ばれました。副会長については会長の指名となり、角田良逸、成田清明の両氏が指名されました。

理事、監事にはつぎの方々を選ばれました。

▽理事 松山正治、新岡慶一、高杉武太郎、今盛栄、太田昌二、柴田秀雄、長内誠治、田中豊蔵、福山光延、田村耕蔵、今政光、長内誠三、大橋敬一、其田輝夫、毛内英文、中元一広、野呂正、松島恒栄、中谷孝、中西慎一

▽監事 大橋得司、角田円蔵

なお、昭和四十四年度予算は総額三百八十三万三千円で、商工振興対策、工業振興対策、観光対策、金融対策、税務対策、労務対策などについてのいろいろの事業を積極的に推し進めることにしていま



【高橋会長】

事業所統計調査のお願い

総理府統計局では、7月1日から全国いっせいに事業所統計調査を行ないます。この調査は、国勢調査とならぶ国の最も基本的な統計調査で、事務所、工場、営業所、飲食店、旅館、映画館をはじめ、駅、学校、病院、神社、寺院にいたるまで、あらゆる種類の事業所について、経営組織、事業内容や従業員数などを調べ都道府県、市町村ごとの事業所数、従業者数の規模やその産業別構成を明らかにするもので、いわば日本の産業の見取図を作る統計調査です。この調査から作られる統計は、国、都道府県や市町村での経済政策、地域開発計画都市計画、国民所得の推計、地方交付税の算定などのために欠くことのできない基本的な資料として使用されます。

お忙しいところ恐縮ですが、調査員がおじゃました時は、この調査の重要性をご理解いただき、ご協力くださるようお願いいたします。

総理府統計局・金木町役場企画室

太田昌二氏が議長となつて議事を進め、昭和四十三年度事業報告及び取支決算を承認、四十四年度事業計画並びに予算などを決めたあと、役員の変更を行いました。会長及び理事、監事については選考委員を

戸籍の窓

四月届出分

生まれた人

☆白川明世 (美佐義3女)川倉

☆白川剛 (幹雄長男) 蒔田

☆野宮伸子 (伸治長女) 三軒町

☆古川博敏 (正美長男) 朝日町

☆松江英寿 (千代寿長男)米町

☆小野敬三 (元靖2男) 山道町

☆対馬史史 (行秀長男) 北新町

☆秋元恵久美 (一行2女) 神原

☆白川秀二 (欣造長男) 沢部

☆中谷早苗 (亨 長女) 南新町

☆芳賀朝子 (健一3女) 寺町

☆木津 悟 (幸雄2男) 山道町

☆横野裕丈 (史 長男) 南新町

☆板谷博幸 (幸一長男) 神明町

☆川島隆行 (福弥長男) 南新町

☆高谷せつ子 (哲男長女) 南本町

☆山口徹也 (幸一長男) 岩見町

☆長内陽子 (政栄2女)上栢木町

☆古川綾子 (忠男長女) 下町

☆松川純子 (清治長女)上小栗崎

☆工藤一芳 (忠信4男) 中派立

死んだ人

☆福長マツエ (四六) 朝日町

☆徳田才助 (七四) 川端町

☆高橋眞一郎 (六一) 神明町

☆長谷川とよ (八六) 山道町

☆前田ソト (九三) 神原

☆間山林蔵 (八四) 新富町

☆今 兵作 (八二) 本町

☆山中ハツ (七九) 冷水

★外崎ツセ (四三) 上古町